滋賀医大病院ニュース
Keeping Lake People Healthy
第20号
2008/10

●リハビリテーション科を開設
●脊椎圧迫骨折時の痛みに対する新しい治療法（PVP）について
●排泄機能ケア外来を開設
●患者支援センターを開設
●病院再開発の進捗状況について

新しい診療科「リハビリテーション科」を開設しました

リハビリテーション部　准教授　今井　晋二

近年、リハビリテーションという言葉は医療や福祉の分野で盛んに用いられ、かなり一般の人にも知られるようになりました。運動麻痺のリハビリテーション、失語症のリハビリテーション、スポーツ・リハビリテーションなど、リハビリテーションという言葉はさまざまな障害や事柄に対して使われています。

従来の臓器別診療型の医療に対して、リハビリテーション医療では、人間的復権を理念として、障害のある方の能力を最大限に発揮させ自立を促し、生活の質（QOL）を高めることを目標とします。滋賀医大病院では平成20年４月にリハビリテーション科が新設されました。運動器リハ、脳血管リハ、心血管リハの分野で施設基準(I)の認定を得て、質の高いリハビリテーション医療の提供に努めています。

リハビリテーション科の医師は様々な物理医学的診断法を用いながら、適切な障害の診断、残存機能の評価、機能回復の予測を行います。さらに、薬の処方や、運動療法・作業療法・言語療法の処方、義肢・装具の作製にたずさわります。充分な診断・評価のもとに、患者さんに効率のよいリハビリテーション・プログラムを提供することができます。

さらに６月には回復期リハビリテーション病棟が開設されました。回復期リハビリテーション病棟への転科・転棟で急性期から回復期までリハビリテーション医療の円滑な移行が可能です。障害自体を軽減できなくても、環境調整やご家族への対応法の指導、自助具など外的補助手段の活用、退院前訪問指導や介護保険制度などの紹介・斡旋などの在宅生活支援によって生活上の問題を解決できることがあります。リハビリテーション医を筆頭に、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカーら、各専門スタッフが一丸となって、患者さんの家庭復帰あるいは社会復帰に向け全力を尽くしております。

リハビリテーション科スタッフ

回復期リハビリテーション病棟

家庭復帰や社会復帰をめざしてリハビリを集中的に行います。

脊椎圧迫骨折時の痛みに対する新しい治療法 経皮的椎体形成術（PVP）について

放射線科　講師　新田　哲久

●PVPとは

出血を余儀なくされる手術とは異なり、X線やCT等を見ながら患部に針でセメント注入を行う治療法です。

1987年にフランスで脊椎腫瘍に対するPVPが始められて以来、日本でも1990年代後半から脊椎疾患に対する疼痛緩和、および骨補強の目的で一部の施設で行われるようになりました。

●対象となる疾患

転移性脊椎骨腫瘍、骨粗鬆症による脊椎圧迫骨折に対して行われますが、これらの病変による疼痛を有する患者さんがこの治療法の対象となります。出血傾向のある患者さん、局所の感染症を合併している患者さんなどは適応外となります。

●治療方法

X線、CTなどさまざまな画像診断装置を応用して行われます。本院では、これらすべての機能を持ったIVR-CTシステムが導入されていますので状況に応じて適した手技を行うことが出来ます。

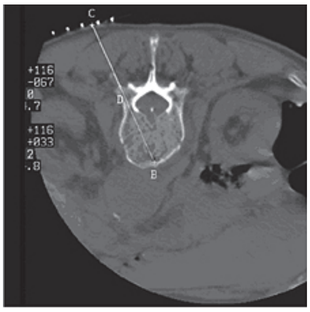


図１：病変椎体のＣＴを撮影して穿刺ルートを決定します。

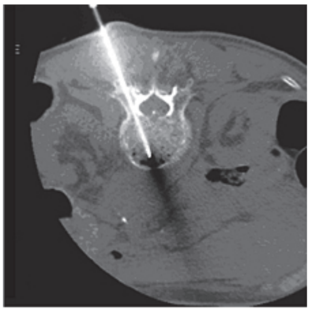


図２：ＣＴ画像を参照しながら針を目的部位まで進めます。

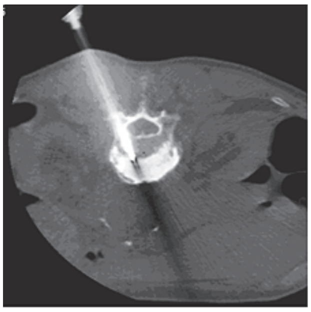


図３：セメント注入をＣＴ画像を参照しながら注入します。

●治療効果

骨粗鬆症による圧迫骨折では、術後72時間以内に80～90%の方に除痛効果があるとされ、早期離床が可能とされています。

また、転移性脊椎骨腫瘍による圧迫骨折の除痛効果は、術後48時間以内に70～97%と報告されています。ほとんどの症例で１ヶ月間は除痛効果が持続するとされています。

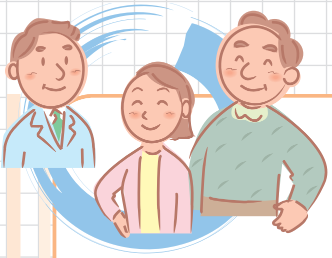
本院では、転移性脊椎骨腫瘍による圧迫骨折の治療について、平成19年６月に厚生労働省から先進医療として認められ、これまで着実に治療成績を上げてきています。詳しくは、放射線科外来へお問い合わせください。下記webサイトでも詳しく説明しております。

滋賀医科大学放射線医学講座webサイト
（http://www.shiga-med.ac.jp/~hqradio/profile/treatment.html）
講座紹介 ＞ 現在行っている新しい治療法、診断法

排泄機能ケア外来を開設しました

～ お一人で悩まずに是非ご相談ください ～

継続看護室　副看護師長　片山　育子



尿が漏れる、尿が近い、うまく出ない、便が漏れる、回数が多い、便秘がひどい…、そんな悩みを抱える方のために、排泄機能ケア外来を開設いたしました。「恥ずかしくて誰にも相談できない」など、お一人で悩まずに私たちにご相談ください。

排尿や排便は、しっかり貯めて、出したい時に残さず出せることが重要です。

排泄機能障害には種類があり、尿失禁では貯められずに漏れる蓄尿の障害、尿が出にくくて漏れる排尿の障害があります。また、神経の障害で尿が出ない場合や排尿回数が多い頻尿なども含まれます。

排便障害も同様で、便が我慢できずに漏れる、便が出にくいことが原因で漏れる障害の他、下痢や便秘、頻便なども含まれます。

排泄機能ケア外来では、これらの問題に対し、①排便と排尿をこらえる筋肉を強くする体操（骨盤底筋体操）の実施、②ライフスタイルの見直し、③食事療法の援助、④排泄障害による皮膚障害に対するスキンケアなどを実施します。

排泄機能ケア外来	（問）077-548-2772
開設日時	第１、第３水曜日の９:00～16:00 （排泄機能ケア外来受診日までに、前もって医師の診察を受けていただきます）
治療内容	問診、食事指導、骨盤底筋訓練、膣内圧・肛門内圧測定、スキンケア
料金	１回の受診につき1,050円（自由診療）
担当者	皮膚・排泄ケア認定看護師　片山 育子、河村 光子、中北 順子

患者支援センターを開設しました

患者支援センター長　三ツ浪　健一

地域医療機関との退院調整業務や、患者さんをご紹介いただく窓口業務を行う地域医療連携部は機能をさらに充実させ、平成20年７月１日に「患者支援センター」として新しく生まれ変わりました。

＜センターの機能＞　以下の業務で中心的な役割を果たしています。

①地域医療機関との連携推進　②地域医療機関から患者さんをご紹介いただく際の受診予約
③病床管理　④医療福祉相談　⑤看護相談

本院は特定機能病院ですので、受診していただく際には原則紹介状が必要です。診察をご希望の場合はまずお近くの医療機関におかかりいただき、地域医療機関の医師から患者支援センターを通して受診の予約をおとりください。

患者さんやご家族の方が様々な療養生活上の問題でお困りの時には、福祉の専門知識を持ったソーシャルワーカーが対応させていただきます。また継続看護室では地域保健医療機関と連携をとりながら、専門看護師及び認定看護師が退院後についてのご相談や外来通院患者さんの継続的なサポートを行っております。是非お気軽に窓口にお声をおかけください。

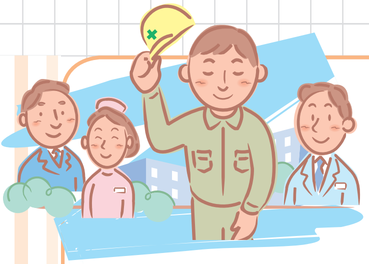
＜今後の役割＞

平成20年６月に回復期リハビリテーション病棟が開設されたことに伴って、退院･転院支援にもこれまで以上に力を注ぎ、ソーシャルワーカーと継続看護室看護師が患者さんや関係機関と共に考えながらサポートを行っていきたいと思います。

また地域の医療機関から急性期の患者さんをご紹介いただき、病状が落ち着けばまたお近くの医療機関に帰っていただく連携システムを構築して、患者さんが適切な医療を受けられるよう地域医療機関と大学病院との役割分担も推し進めてまいりたいと思います。

病院再開発の進捗状況について

病院再開発推進室　室長補佐　國友　陵一



Ａ病棟・給食棟改修に伴う仮移転のための工事が終了しました。

Ａ病棟と給食棟の改修に伴い、去る８月末に、Ａ病棟５階６階の病室、分娩室、ＧＣＵ(新生児回復室)、院内学級等をＢ病棟に設置しました。また、Ｄ病棟６階に移転した食堂跡地（給食棟２階）は患者給食施設に模様替えを行いました。この一時移転期間は平成20年10月～21年５月迄です。

特に患者さんをはじめ、県内外における関連医療機関の周産期関係者及び救急関係者には病床の減少等で大変ご迷惑をおかけすることになりますが、新しい周産期体制再生のため、特段のご理解、ご協力方お願い申し上げます。

平成21年５月には、ＮＩＣＵ（新生児集中治療室）を６→９床、ＧＣＵを３→６床に増床するほか、新生児モニタリングシステムをはじめとする最新の設備を整備し、安全管理、感染対策、セキュリティー面で十分に検討された施設に生まれ変わります。また、分娩室、ＬＤＲルーム※、新生児室等の患者アメニティーも飛躍的に向上するよう計画しています。

滋賀県唯一の大学病院として、高い体外受精率を誇る生殖医療の実践、ハイリスクな分娩、緊急かつ高度な治療方法が求められる新生児集中治療に対応できる周産期施設として生まれ変わる予定で、病院スタッフも一丸となって取り組んでまいります。

院内表示（サイン）も更に一新しました！

エレベータホール、廊下等の院内表示（サイン）もリニューアルしました。患者さんにとってわかりやすいように、色によって診療ゾーンを区分しております。

茶色のエレベーター

緑のエレベーター

緑の廊下

ご協力をお願いします。

10月からＡ・Ｂ病棟の改修、中央診療棟増築（手術棟増築）、給食棟の改修工事に本格的に入ります。構内道路の通行障害等により、患者さん、ご家族、関係者の方々にご迷惑をおかけしますが、何卒特段のご協力の程よろしくお願い申し上げます。病院再開発事業に関し、ご意見・ご提案等ありましたら、病院再開発推進室までお申し出ください。ご意見箱もご利用ください。

（TEL：077-548-2954 直通　　メールアドレス：hqsaikai@belle.shiga-med.ac.jp）

※陣痛（Labor）、分娩（Delivery）、回復（Recovery）の略語で、分娩監視装置を始めとして、最新の医療機器が設備されています。

滋賀医科大学医学部附属病院　理　念

「信頼と満足を追求する全人的医療」

●理念を実現するための　基本方針

- ●患者さま本位の医療を実践します
- ●信頼･安心･満足を与える病院を目指します
- ●あたたかい心で最先端の医療を提供します
- ●地域に密着した大学病院を目指します
- ●世界に通用する医療人を育成します
- ●健全な病院経営を目指します

滋賀医大病院ニュース第20号
編集･発行: 滋賀医科大学広報委員会
〒520-2192　大津市瀬田月輪町
TEL: 077（548）2012（企画調整室）
過去の滋賀医大病院ニュース（PDF版）はホームページでご覧いただけます。